

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	盛岡市立仁王小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	授業の改善 —自律的に学ぶ子どもが育つ授業—（第2次）

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動に至る経緯

令和2年度より「自律的に学ぶ子ども」の育成を掲げたことで、授業はもちろん教育活動全般において「友達と協働して学ぼう」とする子どもの姿や「教師とともに授業や行事にねばり強く取り組もう」とする子どもの姿が多く見られるなど確かな成果が見られるようになってきた。

また、「自律的に学ぶ子ども」の育成に向けて、「授業改善3つの視点『つなぐ』『えらぶ』『つかう』」と「学びの文脈をデザインする」を全校研究の手立てとして、各教科等研究部において具体的手立てを講じて研究を進めてきた。確かな成果が見られた一方、諸調査やアンケートにおいて「活用」や「メタ認知・自己調整力」に課題があることや、「すすんでやりぬく仁王の子アンケート」（校内アンケート）の「かんがえる子イ：多面的に、筋道立てて考え、判断する」（思考力、判断力、表現力等）の肯定回答が減り、否定回答が増えていることから、これまでの手立ての見直しが必要であると考えた。

そこで、本校がこれまで大切にしてきた「一人一人の子どもの内在的可能性の開発」という基本理念に立ち返り、これまでの研究で取り組んできたことを「学習者中心」の視点で捉え直すこととした。これまで以上に一人一人の子どもの問題意識や目的意識を大切に、子どもにとって学ぶ意味や価値のある学習活動を通して、新たな考えや価値を創り出す喜びを味わい、子ども自身が、そこで得た知識や考え方を次の問題解決に生かそうとする授業展開、単元（題材）構想、単元（題材）配列を行っていかうと考えた。

この考えは、中央教育審議会答申（令和3年1月26日）「令和の日本型学校教育の構築を目指して」で述べられている「個別最適な学び（指導の個別化と学習の個性化）と協働的な学びを一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげる」という考えに通じるものである。

本研究では、研究の方向性や基本的な考え方についてはこれまでと変更しないこととし、そのうえで、上述した課題を解決し、本校の子どものよさを更に伸ばすために、これまでの取組や手立てを「子どもの目線」で捉え直すことで、授業の改善を実現することとした。



2 活動・研究の目的(ねらい)

学校教育目標の具体化にあたり、変化の激しい未来社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力の育成のために、自律的に学ぶ子どもが育つ授業の在り方を実践的に明らかにする。

3 研究内容

「自律的に学ぶ子ども—よりよいもの（考え）を求め、自分の意志で目標を設定したり、調整したりして問題を解決していく子ども—」を育成するための手立てについて

ア 子ども「学びの文脈」のデザインの在り方

イ よりよく学ぶ3つの視点「つなぐ」「えらぶ」「つかう」を子どもが駆使するための各教科領域等の特質に応じた手立ての検討

4 子どもたちへの効果(成果・課題)

「自律的に学ぶ子どもが育つ授業」をテーマに掲げた研究の第2次となる今次研究では、「子ども一人一人は、かけがえのない存在であり、内在的可能性を秘めた教育の権利主体である」という基本理念に立ち返り、これまでの研究を学習者中心の視点で見つめ直すこととした。そして、子どもが自ら学びの文脈をデザインし、よりよく学ぶ3つの視点「つなぐ」「えらぶ」「つかう」を子ども自身が駆使する授業について、実践的に研究を進めてきた。次回の第3次研究（年次研究の最終、令和7年度学校公開研究会開催予定）で明らかにすべき課題も多いが、今次研究では以下のような成果と課題が挙げられた。

<成果>

○「学びの文脈」のデザインについて

- ・子どもが自分の学びの文脈をデザインすることで、自分と友達の学びに目を向けながら、自らの学びを調整しようとする姿が見られた。
- ・教師が子どもの学びを可視化することや子どもの実態に応じた単元構成や題材構成をすることで、子どもにとって与えられた学びではなく、必要感や切実感を伴った学びを生み出すことができた。

○よりよく学ぶ3つの視点「つなぐ」「えらぶ」「つかう」を駆使するについて

- ・子どもとよりよく学ぶ3つの視点を共有したことで、思考場面において最適解や納得解を求め、ねばり強く学んだり協働的に学んだりする姿が見られた。
- ・子どもがこれまでの知識や生活経験、仲間、教材、教師や地域など多くのものをつながりながら、深い学びに自ら向かっていく姿が見られた。



<課題>

●「学びの文脈」をデザインするについて

- ・学習者主体と教科等のねらいの達成を両立する探究的な単元・題材構想の在り方

●よりよく学ぶ3つの視点「つなぐ」「えらぶ」「つかう」を駆使する

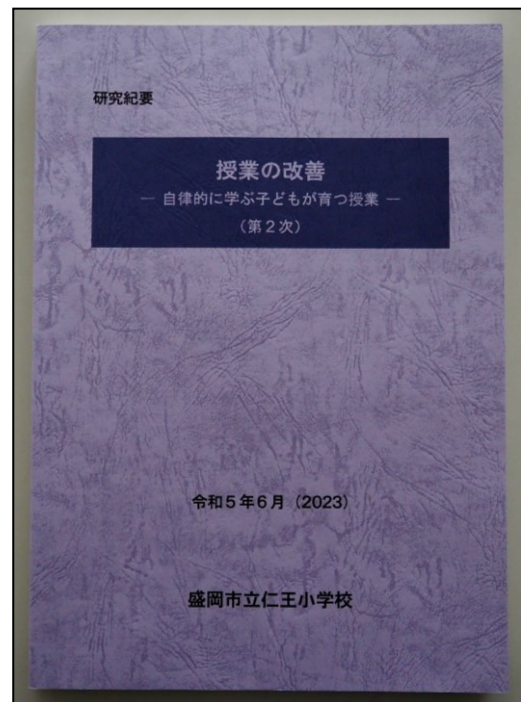
- ・個々の子どもの学習状況を見取りながら適切にかかわる評価の在り方



〔学校公開 3年 外国語活動の授業の様子〕



〔学校公開 仁王の子タイム（縦割り班活動）の様子〕



〔研究紀要・学校公開研究会要項〕